授業科目名・形態	公衆衛生看護活動論Ⅰ(母子保健)　講義	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	熊澤　由美子	実務経験の有無	有	開講期	3年前期
科目ナンバリング	N6-3019pmht				

【授業の主題】

母子保健(親子保健)分野における保健活動の歴史的な変遷や現在の施策及び動向を踏まえて，健やかな育ちの支援とそれを見守り育む地域づくりについて学ぶ。妊娠・出産及び乳幼児期を中心に、育ちの過程に応じながら切れ目のない支援を目指す、公衆衛生看護展開の視点と技術を学ぶ。上記の学びを通じて保健師の役割を学修する。

【到達目標】

1) 母子保健分野の健康課題の動向を説明できる
2) 母子保健・児童福祉・成育医療に関する法規や体制と意義を説明できる
3) 乳幼児期の発育・発達に応じた標準的な保健指導を理解できる
4) 支援ニーズの高い子どもと家族に対する支援について考察し、意見を述べることができる

【授業計画・内容】

1回目　親子保健(母子保健)の変遷・動向と現在の主な母子保健医療福祉施策　text p.3-16
2回目　母子とその家族における健康課題と支援　text p.17-19
　　演習：産後に強い落ち込みがみられる母親・家族の支援
　　架空事例のグループ検討、ペーパーシミュレーション
3回目　子どもの健康課題と支援　text p.24-32
4回目　乳幼児健診と切れ目のない支援, 地域の支援体制づくり　p.33-42,20-22
5回目　育てにくさを感じる保護者への支援　text p.48-57
6回目　女性のライフサイクルを通じた健康課題と支援　text p.44-47
7回目　支援ニーズの高い子どもと家族への支援(1)家族単位の支援　text p.48-50
8回目　支援ニーズの高い子どもと家族への支援(2)関係機関の連携　text p.48-50

【授業実施方法】

講義を中心とするが、教員と学生との対話、学生間の意見交換、模擬事例を用いたロールプレイ等のアクティブラーニングを取り入れる。授業終了前に5分程度のリフレクション時間を設け、学修の振り返りや不明事項の解消を図る。

【事前・事後学習】下記を総計し30時間程度

事前学修
・学修ノート：教科書等の該当部分を熟読し、記述内容の要約を書く。分からない用語や文章を書き出しする。
　各コマに関連する母性看護学・小児看護学の履修内容を再確認する。予防、健康増進について学ぶ認識で再考する。
・少子化、児童虐待など、親子の健康に関する時事問題に関し報道を確認し、書籍類と照合し公衆衛生看護の役割を考察する習慣をつける。

事後学修
・その日の学修内容のまとめ、予習時の不明点など新たな学びについて、自分の理解に沿って学修ノートに記述する。
・演習で得た他の学生の視点や考察、自分で新たに考えたことをノートに記述する。

【主な関連する科目】

「公衆衛生学」「公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ」など公衆衛生看護学の科目

【教科書等】

岸恵美子ほか編：保健学講座3　公衆衛生看護活動展開論，メヂカルフレンド社，2020.
厚生統計協会編：国民衛生の動向 2024/2025 , 2024.（2年次に購入したもの）

【参考文献】　記入なし

【成績評価方法】

授業態度(5%)　演習の取り組み姿勢(10%)　演習後の提出物(15%)　定期試験(70%)
演習時の評価の着眼点：事前学修をした上での発言、異なる意見を聞いた後の議論の発展、メンバー内での対等な意見交換などを重視します。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

乳幼児健康診査や療育支援、虐待事例への支援の実務を通じて、児の健やかな発育発達を地域で支える母子保健活動の実際と管理について俯瞰的視点で学べるように講義と演習を展開します。

【学生へのメッセージ】

母子保健分野は人が一生を通じて健康に生きていく基盤を支える看護活動です。自分事として学びを深めましょう。